

はじめに

今般、パナマの国別事業評価調査が完了いたしましたので、ここに最終報告書を提出いたします。この報告書は、国際協力事業団より私どもが「外部機関」としての委託を受け、2001年11月から2002年11月までに実施しました調査業務の結果を取りまとめたものです。

本調査は、1998年度からJICAが実施している国別事業評価の2001年度の調査の一環として実施されました。国別事業評価は、既にバングラデシュ（1998年度）、メキシコ（1999年度）、ボリヴィア・タンザニア（2000年度）と実施されてきました。国別事業評価は、評価対象国で実施された事業の個別評価に加え、分野横断的な評価（スキーム別評価、貧困・ジェンダー評価）、分野別評価を実施するより包括的な評価であります。

今回の調査は、評価の精度を高め調査全体の質を高めるため、いくつかの新しい試みがなされ、以下のような特徴を持っております。

1点目は、JICA中米カリブ地域別支援委員会の支援による調査内容の充実です。今回は、支援委員の方々からは、調査着手報告書を作成した調査初期の段階で調査方法・方針に関する助言をいただき、次に本格的な現地調査に臨む前の段階で作成した、各分野における評価対象期間（1991年～2000年）の重要な開発課題を整理した「開発課題体系図」への助言をいただきました。最後に、本調査の最終報告書案の記述内容についても数多くの指摘・助言を頂戴しました。これらの支援により、今回の調査報告書は、調査団が独自に作業を実施し完了した場合に比較して、記述内容の正確さや重要点の反映の度合において優れたものとなったと思います。

2点目は、分野別評価の実施過程での他ドナー、パナマ側の関係者との意見交換による分析の充実です。第2次現地調査では、主要ドナーやパナマ側の政府機関を訪問しましたが、その際に分野別に上記の「開発課題体系図」を示し調査団の認識を示すと共に彼らから率直な意見を求めました。活発な議論が行なわれ、結果的に分析の客観性・正確さが増したように思います。

3点目は、最終報告書をまとめる前の段階でのパナマでの評価セミナーの実施によるパナマ側からの意見の聴取とその内容の報告書への反映です。通常、報告書は、案の段階でJICAの各事業部などからフィードバックを受け、調査者の事実認識に誤りなどあれば、記述内容を適宜修正するものです。今回は、報告書案を日本側に限らずパナマ側にも事前に提示した上で現地で評価セミナーを実施し、報告書案の内容に関する多種多様なコメントを受領しま

した。そのコメントに基づき、やはり記述内容を改善しました。また、評価手法や評価結果などに関する調査団の見解と異なる意見に関しても、本報告書の読者・関係者への参考となるよう、報告書の中で明確に取り上げ、紹介しています。

本報告書はこのような特徴を持つわけですが、本報告書の記述内容や提案が何らかの形で活用され、JICA 事業の効率的・効果的な実施に役立てていただければ、調査団としては最大の喜びであります。

最後に、本調査の実施に際しては、数多くの関係者から支援・協力を賜りました。在パナマ日本国大使館・JICA パナマ事務所はもとより、中米カリブ地域別支援委員会の方々、国内および現地で質問票調査や聞き取り調査に多大な協力をいただいたパナマ経済財務省以下関係諸機関、派遣専門家・シニア海外ボランティア・青年海外協力隊員の方々には、この場をお借りしまして、深くお礼を申し上げます。

2002 年 11 月

調査団長

アイ・シー・ネット株式会社

笹尾 隆二郎